北星会館だより

2023年
令和5年 1月発行
142号

住所　〒799-1341　西条市壬生川682
電話･FAX　0898-64-0321
E-mail　hokuseikaikan@saijo-city.jp

第7回　優･友･楽習会　「思いを繋ぐ」

12月2日(金)西条高等学校講師で愛媛県人権問題研修講師をされている石田伸一先生をお迎えして、今年度最後の楽習会を開催しました。思いを繋ぐことができたこと、差別や偏見のメカニズムについてお話いただきました。

映画「男はつらいよ」の渥美清さんのお話から始まりました。彼が演じた寅さんは困っている人を助ける優しい人柄で、渥美さんご本人と重なります。被災地の神戸で病を押して撮影し、神戸の人たちに優しく接したそうです。最後の作品では渥美さんはもう亡くなられていましたが、次世代の俳優さんたちに思いはつながっています。

タレントの黒柳徹子さんは、かつて番組進行中に起きた他者からの問題発言に対して、生放送中にもかかわらず時間を取り、その人の発言について誤りを指摘しました。一緒に司会をしていた男性も黒柳さんと同じ意見だと言われたそうです。黒柳さんは普段から人権問題に真摯に向き合ってきたからこそ、そのような対応ができたのです。

四国中央市土居町出身の江口いとさんの詩が朗読されました。いとさんは地域の子ども会を立ち上げ、学習会を開き学力保障に努めました。息子さんが身元調査により就職差別、結婚差別に遭いました。しかし、いとさんは差別から逃げることはなく、全国各地で3,000回も差別の不合理を訴え続けました。いとさんの差別解消に向けた思いは、息子さんたち次の世代に受け継がれています。

次ページへ

教室生人権啓発学習会のお知らせ

今年度も 1月末から2月にかけて会館教室生･利用団体等を対象とした学習会を計画しております。 詳しくは各教室ごとに、ご案内いたしますので参加をお願いします。

内容 「あなたには無意識の偏見がありませんか。」

- ･無意識の偏見について考える。
- ･無意識の偏見を持たないために。
- ･偏見と差別との関連について考える。

昨年度の学習会の様子

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、日程を変更させていただく場合もあります。

【人権相談日】

2月20日(月)　3月20日(月)

13:30～15:00

館職員が対応します。

お気軽にご来館ください。

【職業･生活等各種相談日】

2月15日(水)　3月15日(水)

13:30～15:30

近藤相談員が対応します。

諸事情で開催日を変更する場合がありますのでお問合せください。

12月にエコクラフト教室生の皆さんが、お正月飾りを作成していました。完成後には並べて皆で記念撮影！ずらっと並べると華やかです。

先生から会館用にと、一ついただきましたので、さっそく飾ってみました。ありがとうございました。

東日本大震災で犠牲となった宮城県石巻市立大川小学校の児童たちを心に留めようと、遺族らが小学校近くで育てたひまわりの種が和歌山へ渡り広がりました。娘さんを亡くし、ひまわりを植え始めた母親の思いは日本中につながっています。

講演の中では、江口いとさんの詩「人の値うち」「受けて立つ差別」や、被災した生徒の心に寄り添い続けた教師の照井翠さんの震災俳句「毛布被り孤島となりて泣きにけり」などの朗読が流れました。哲学者 鷲田清一さんの著書「語りきれないこと」の中には、震災後の『ガレキ』という言葉について、被災者にとっては、それはただのガレキではなく、思い出がしみ込んだものである。被災者に思いをはせること、相手の気持ちを考え痛みを感じる感性が大切だと書かれていると言われました。

差別はどのように生まれるのでしょうか。差別や偏見のメカニズムについて、ステレオタイプのものの見方（多くの人に浸透している固定観念やイメージ、思い込み）が、偏見につながり、さらに差別の行動や言動につながります。つまり差別や偏見をなくすためには、ステレオタイプのものの見方を排除して、正しいことを知り、正しく考え、正しく行動することが重要になります。

人権・同和教育は、同和問題をはじめとするあらゆる差別をなくそうとする教育であり、すべての人の人権確立を目指す教育でもあります。自分自身が差別をする側に立っていないか、差別をなくする側に立っているのか、その生き方・あり方に関わる教育だとお話いただきました。

差別をなくす側に立ち、差別をなくす思いを繋げていきましょう。

人の値うち

江口 いと

何時かもんぺをはいて　バスに乗ったら
隣座席の人は私を　おばはんと呼んだ
戦時中よくはいたこの活動的なものを
どうやらこの人は年寄りの　着物と思っているらしい

よそ行きの着物に羽織を着て　汽車に乗ったら
人は私を奥さんと呼んだ
どうやら人の値うちは　着物で決まるらしい

講演がある
何々大学の先生だと言えば　内容が悪くても
人々は耳をすませて聴き　良かったと言う
どうやら人の値うちは　肩書で決まるらしい

名も無い人の講演には　人々はそわそわとして帰りを急ぐ
どうやら人の値うちは　学歴で決まるらしい

立派な家の娘さんが　部落にお嫁に来る
でも生まれた子供はやっぱり　部落の子だと言われる
どうやら人の値うちは　生まれた所によって決まるらしい

人々はいつの日　このあやまちに気付くであろうか

人権ポスター「笑顔の花を　咲かせよう」からのメッセージ

11月18日（金）東予東中学校の1年生5名が「人権ポスターの市内掲示活動」のために来館しました。「差別をなくすために、自分から行動する」という生徒会の熱い思いから始まり、今回で30回を迎えます。「差別をなくすために、私たちはうったえます！」と ポスター作成の思いを語り、持参した人権ポスターを会館事務室横に掲示してくれました。11月中旬からの1カ月間、多くの来館者がポスターを見て生徒さんたちの人権に対する学びを知ることができました。

【笑顔の花を　咲かせよう】

「人が喜んだりして 笑顔の時、
自分もうれしくなり、自然と笑顔になります。
このポスターを見て、他の人も笑顔になり、
キラキラ輝く　笑顔の花を咲かせたい。
みんなを笑顔にしたい！
そういう気持ちを込めて描きました。」

生徒さんたちのメッセージより

ふれ愛シネマ鑑賞会

12月16日（金）映画「坊っちゃん」の鑑賞会を開催しました。「坊っちゃん」は原作が夏目漱石の中編小説です。明治39年、東京から中学の数学教師として、四国の松山にやって来た無鉄砲で負けず嫌いの坊っちゃん（中村雅俊）が、学校や市街で繰り広げる出来事を映画にしていました。マドンナ役は松坂慶子さんです。

私たちがよく知る松山城や道後温泉、撮影用に造られた三津浜の港などが明治時代の風景で画面に出てきました。

寒い一日でしたが、90分間楽しく鑑賞でき、心が温まりました。